

令和7年度学校経営計画書

学校名 三次市立栗屋小学校

校長名 高槻 雄志

I 学校の状況

学級数 (5学級) 児童数 (24名) 教職員数 (9名)
メールアドレス (awayae@school.miyoshi.hiroshima.jp)
ホームページアドレス (<http://www.school.miyoshi.hiroshima.jp/elementary/awayae>)

II 学校教育目標

夢や目標の実現に向かって ねばり強く歩み続ける児童の育成

めざす子供像

あいさつがしっかりできる子

わかるまで学び続ける子

やさしい行動ができる子

III 使命・存在意義（ミッション）

夢や目標の実現に向かってねばり強く努力を続けることで、社会人、職業人として自立する基礎を培い、地域に貢献しようとする高い志をもった人材を育成する。

そのために、個別の実態に応じた最適な手立てにより、主体的に学ぶ力を伸ばし、他者と係り合う学校生活の中で自己実現や地域貢献に取り組む素地を養う。地域と連携した教育活動を通して、地域貢献への意欲を高める。

IV 重点事項（努力点）

身に付けさせたい資質・能力 (資質・能力の捉え) 〈評価〉

★表現力 (目的や意図に応じて、自分の考えが伝わるように工夫して表現する力) 〈発表・文章・作品〉

★主体性 (自分で決めて、考えて行動することを自ら繰り返せる力) 〈選択・自律・自立〉

★共感力 (他者の気持ちを想像し、自分の気持ちとの折り合いをつけることができる力) 〈道徳性・共助・協働〉

V 中心価値・行動規範

○危機管理を徹底し、安心・安全な学校を目指します。

○児童の学ぶ力を伸ばすため、主体的・対話的で深い学びを推進します。

○職責を自覚し、組織的に協働して職務を遂行します。

○研修の充実と業務改善により、教職員の指導力向上と健康維持に務めます。

VI 現状分析

確かな学力

評価指標	8月	1月	差
学期末テストで8割以上の児童を算数科・国語科ともに80%以上にする。	62%	50%	▲12%
学びの過程や振り返りを具体的にノートに書いている児童を90%以上にする。	87%	84%	▲3%

○学校全体で国語科「知識・技能」が69% (8月)から72%に向上した。しかし、国語科・算数科を合わせた目標値である80%に届かなかった。読み聞かせ、文集づくり・短歌創作などの表現活動に計画的・組織的に継続して取り組むことで表現力の向上を図った。また、

また、非認知能力の育成を基盤とした学級づくりをおこない、自己選択・自己決定の場を設け、児童の自己調整力を育て、生かす算数科の授業改善に取り組んだ。数値目標を達成することはできなかったが、高学年を中心に粘り強く学びに向かう力の向上は見られた。児童相互がかかわり合う場をより充実させ、教師主体から児童主体の「学び」への転換を図っていく。

豊かな心と健やかな体

評価指標	8月	1月	差
時間の意識、当番活動、自分・他者のよさ、頑張りを認め合ってまわりに積極的に関わる児童を90%以上にする。	101%	92%	▲9%
夜9時以降のゲーム機、スマホ等を使わない児童を90%以上にする。	92%	90%	▲2%
体力向上自己目標を設定(持久走、縄跳び等)の自己目標を達成する児童を90%以上にする。	63%	105%	42%

トップ9については、月1回に加え「チャレンジ週間」を設定し、個人記録表の見直し、表彰の改善等をおこなうことで自己の生活習慣を見直し、自覚を高めるようにした。体力については、自己目標達成に向けた各自の取組の継続性への評価を重視したことにより、数値目標の達成につながった。

信頼される学校

評価指標	8月	1月	差
職員の校内研修満足度を90%以上にする。	92%	100%	8%
学校が楽しい(充実している)と感じる児童を90%以上にする。	106%	102%	▲4%

るよう児童及び教職員とSSW、SC等と定期的な個人面談を実施する等、連携して組織的に対応した。また、児童の「よさ・頑張りに」焦点化した教職員交流を定期的に継続して実施した。

令和7年度の取組

- 個別最適な学びと特別支援教育を基盤とし、小規模校のよさを生かした学びを創造する。ICT機器の効果的な活用、学びの過程が自己で振り返ることのできるノート指導、児童相互のかかわり合い、伝え合いを充実させた複式算数科の授業研究を組織的に推進し、児童の「できた」「わかった」を増やし、児童に「学ぶ楽しさ」を感じさせ、児童の主体性・表現力を向上させる。
- 近隣の小中学校や地域と綿密に連携し、「コミュニティ・スクール」での地域教育力を活用した取組を進めることで、地域に愛着を持ち、地域に貢献しようという志をもった児童の育成を図る。
- 学校行事(避難訓練等)・防災学習を通して、自らの命を自ら守る危機管理意識や実践力の向上を図る。

○時間の意識、当番活動、自他のよさ・頑張りを認め合いまわりに積極的にかかわることは、生活健康部を中心に組織的・継続的に取り組んだ。友達のよさ・頑張りをを見つけ、伝え合う「スマイルのわ」の取組を通して、自分のよさを認識できている児童の自己評価が62%(8月)から72%(1月)に向上し、児童の自己有用感の向上に一定の成果がでた。ス

○算数科では、前岡山大学の中山芳一准教授や県・市教育委員会指導主事を招聘し、授業研究や理論研修を行い、授業研究の方向性を全体で共有した。児童の学校生活がより楽しく充実したものにな

	三次市学力到達度検査	
	全国平均を上回った科目	市平均を上回った科目
令和4年度	6/14	2/14
令和5年度	3/12	1/12
令和6年度	2/12	1/12

	生徒指導上の諸問題		
	暴力行為	いじめ	不登校
令和4年度	0	1	4(2)
令和5年度	1	0	3(1)
令和6年度	0	0	5(1)

()内は新規

	教職員の働き方	
	勤務時間外の月平均在校時間	月45時間以内
令和4年度	26時間 9分	86.4 %
令和5年度	27時間 50分	71.1 %
令和6年度	29時間 3分	88.7 %

Ⅶ 中期経営目標及び短期経営目標

	中期経営目標	短期経営目標	具体的な取組・方策
確かな学力	自らの考えを豊かに表現することができる児童を育てる。 【表現力】	○教科書の内容を理解し、活用問題も解くことができる。(成果指標：単元末テスト(算数科、国語科)で知識及び技能の学校平均の正答率70%以上、思考力・判断力・表現力等の学校平均の正答率50%以上。)	① 個々の児童の躰きを分析し、組織的な指導・支援により、それぞれの課題解決を図る。 ② 三次版「授業モデル」や十日市中学校区オリジナルカリキュラムを基に、栗屋授業モデルを活用し授業改善を推進する。 ③ 読書ファイルの活用等を通して、読書活動の充実を図る。
		○自分の考えを相手に伝えるように工夫して発表したり、書いたりすることができる。(成果指標：学びの過程や振り返りを具体的に分かりやすくノート等書いている児童90%以上。また、成果物を3回以上作品応募に出品。)	① かかわり合いながら学ぶ場、自分の考えを伝え合う場を確保し、主体的な学びを深め、表現力を高める。 ② 持続的な学びに繋がるよう、授業のまとめや振り返りを書かせる。 ③ 成果物出品により自己肯定感を高め、表現することへの自信と意欲を高める。
豊かな心と健やかな体	他者の気持ちを想像し、自分の気持ちと折り合いをつけ、他者も自分も幸せにする行動が進んでできる児童を育てる。 【主体性】 【共感力】	○非認知能力を育てる。(成果指標：挨拶、時間の意識、当番活動、自分・他者のよさ、頑張りを認め合って積極的に関わる児童90%以上。)	① 互いに認め合い、助け合う集団づくりを進める。 ② 挨拶、時間、当番活動等への責任感を高め、評価する。
		○基本的生活習慣の確立と体力向上を図る。(成果指標：体力向上自己目標達成90%以上)	① 児童の運動への意欲向上につながる体育科授業改善や体育的行事等を計画的に行い、体力向上を図る。
信頼される学校	児童・保護者・地域から信頼される学校経営を行う。	○教職員の授業力向上を図る。(成果指標：校内研修の満足度100%。)	① 年2回以上研究授業を行う。 ② 校外研修や研究会に2回以上参加し、校内研修や授業改善に活かす。
		○児童が安心安全に過ごせる学校環境の維持、向上を図る。(成果指標：児童の肯定的評価90%以上)	① ホームページや通信等で学校の取組を定期的に発信するとともに、細やかな家庭連携を行う。

評価基準

A	目標を十分達成している。100%以上
B	目標を概ね達成している。75%以上100%未満
C	目標をやや下回っている。50%以上75%未満
D	目標を大幅に下回っている。50%未満